

| | | | | | |
|--------------|---|---|-----------|-----------|-------|
| 学校教育目標 | ともに輝け 笑顔いっぱい ふれあいいっぱい ひよみなっ子 ○進んで学習し、粘り強く解決する子を育てます。(知) ○自分も友達も大切にすることを育てます。(徳) ○運動に親しみ、健やかな心と体をつくる子を育てます。(体) ○進んであいさつをし、地域と関わろうとする子を育てます。(公) ○互いの良さを認め合い、新たな未来を創造しようとする子を育てます。(開) | | | | |
| | 学校概要 | 創立 59 周年 | 学校長 栗原 信一 | 副校長 松尾 知起 | 2 学期制 |
| 児童生徒数: 666 人 | | 主な関係校: 日吉台中学校、日吉台小学校、北綱島小学校、矢上小学校、箕輪小学校 | | | |

| | | |
|-------------------------------|--|---|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 日吉台中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| <自分の考えをもち、 対話を通して問題解決を図る力> | 日吉台中 日吉台小 北綱島小 矢上小 箕輪小 日吉南小 | 自己のよさに気づき、友達のよさも認め合える子「笑顔」 進んで他者と関わり合い、地域に生きる子「あいさつ」 ・年間を通してあいさつの大切さを指導するとともに、計画委員会を中心に、 児童の発想を基に 「あいさつ運動」に取り組みます。 ・合同授業研究会を実施し、9年間を見通したカリキュラム作り、 適宜ICTを効果的に活用した 授業展開を目指します。 ・小中一貫教育推進ブロック内の公開授業、児童生徒交流、教職員の協働で小中一貫教育の質を高めます。 |

| | |
|--------|---|
| 中期取組目標 | ともに進む さらなる一步を みんな笑顔の温かい学校 チームひよみなでやってみよう ~通いたい、通わせたい、応援したい、勤めたい学校~ ○道徳科の授業の充実や縦割り活動、親和的な学級づくりに 児童の思いを大切にしながら取り組み 、豊かな心を育てます。 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて データ活用により児童の事態を捉え 、授業力を向上させ、特別支援教育を意識した「だれ一人取り残さない、分かる楽しい魅力ある」授業、教育活動を行います。 ○地域の教育力や外部の人材を活用するとともに、 児童の思いを引き出し 、地域行事や実体験を活用し、地域や社会の一員としての心を育みます。 ○教職員がよさ・持ち味を出し合い、支えあえる教職員集団をつくとともに、教職員一人ひとりが学校運営に対して参画意識をもち、よりよくしようと協働できる組織をつくります。 |
|--------|---|

| 重点取組分野 | | 具体的取組 |
|-----------------|--------------|---|
| 知 | 授業改善 | ①児童が主体的に課題を見出し、伝え合う活動を通して課題解決に向けた学びを進める中で、 児童が自分の学びを判断・選択しながら 達成感や自信がもてるようにする。 ②学びのユニバーサルデザイン、特別支援教育の視点を持ち、児童一人ひとりに寄り添った学習を実現する。 ③ ICT機器を含め、思考・判断・表現の力を高めるためのツールを効果的に選択・活用できる よう指導の充実を図る。 |
| 担当 | 重点研究推進委員会 | |
| 徳 | 道徳教育 | ① 児童の実態やデータ から問題意識を高めて道徳の学習に臨み、学校生活のあらゆる機会をとらえ、道徳性を育てていく。②たてわり活動に取り組み、異年齢集団の中で思いやりの心を育てる。③ 計画委員会が中心となり 、継続的にあいさつ運動に取り組む。④朝会等の機会を用いて、人権に関する話題に触れることで、児童の人権への意識を高める。 |
| 担当 | 人権・児童指導委員会 | |
| 体 | 健康教育 | ① 児童の意見をもとに 、クラス単位で外遊びを企画したり、外部講師を招きスポーツ教室を行ったりして、運動に親しむ機会を増やす。②手洗いや換気などの衛生的な生活行動を習慣づけるとともに、 日々の健康観察や各調査の分析等に基づいて 不安やストレスなどの心の健康課題に丁寧に対応する。③児童が食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けられるよう、食育全体計画に基づき、計画的かつ継続的に食に関する指導を実施する。 |
| 担当 | 安全・体力委員会 | |
| 公開 | 地域学校協働活動 | ① 児童が地域とつながりたい思い を大切に、学校・地域コーディネーターを中心としたひよみなパートナーや地域講師の方々へ協力をいただき、地域と連携することで児童の学びがより深まるようにしていく。② お便りの配信やホームページ教育活動について積極的に発信し 、本校の教育について理解と協力を求める。また、学校運営協議会等での意見を反映させていくようにする。 |
| 担当 | 地域連携・たてわり委員会 | |
| いじめへの対応 | | ①年2回の「Y-PAアセスメント」と「横浜プログラム」で 得たデータ を活用し、児童が授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。②日頃から 児童の思い に寄り添い、児童の小さな変化を見逃さないようにするとともに、年2回のアンケートや、SOSの出し方教育プログラムを実施することにより、いじめ防止基本方針による迅速なチーム対応と体制づくりをする。 |
| 担当 | いじめ防止対策委員会 | |
| 人材育成・組織運営(働き方) | | ①フレッシュヤーズ研(メンターチーム)を充実させ、経験の浅い教員の指導力向上を図る。②チーム学年経営などを導入し、学年組織や校務分掌の中でOJTを通して将来像をイメージしたり仕事を覚えたりできるようにする。③学年やブロックなどを中心に情報交換・連携し、 ICTを活用した業務の効率化や情報の共有化を行いながら 全職員でよさや持ち味を出し合って、「チームひよみな」を意識した学校運営を行う。 |
| 担当 | 教務部 | |
| 児童生徒指導 | | ①全職員が「ひよみなルールブック」の内容・意義を共有し、 児童と共有 しながら継続して指導していく。②学年に応じた教科担任制、ブロック担任制を取り入れたりと、児童支援専任と連携したりしながら、複数名の教員が多様な視点で児童を見ていく。③ YPアセスメント等のデータを活用し 、児童一人ひとりを丁寧にみるとともに、組織的に情報共有・対応していく。 |
| 担当 | 人権・児童指導委員会 | |
| 特別支援教育 | | ① 配慮を要する児童の困り感 を全教職員で把握し、共通理解を図る。支援が必要な児童について保護者と相談しながら教育支援計画・指導計画をチームで作成する。また、パワーアップルームなどを活用し個々の実態に応じたきめ細かい指導を行う。②必要に応じて外部機関と連絡を取り合い、より専門的な視点から支援方法を検討していく。 |
| 担当 | 特別支援教育委員会 | |
| 情報教育 GIGAスクール構想 | | ① 一人一台端末の効果的な活用 や個に応じた指導の工夫を意識して学習計画を立てる。②発達段階に応じてつける力を明確にして、情報教育の推進と情報活用能力の育成を計画的に行う。③ 児童の実態 や行事に合わせた実感を伴った指導の積み重ねにより、情報モラルの育成を行う。 |
| 担当 | 情報委員会 | |
| 担当 | | |